



- 本年度の総会
- 京杉の家の住宅見学
- 第7回ライフ・アンド・フォレスト
- 酢屋の見学
- 彩工房主催のイベント
- 新たな事務局員の紹介
- 森林・林業小話
- 編集後記

No.41 (2018.7.11 発行)

★本年度の総会を開催しました★



原田直紀さんが講演している様子

2018年6月10日に無鄰菴で総会が行われました。無鄰菴は国の名勝に指定されており、若苗色の芝生と清流のせせらぎが心地よかったです。

記念講演では、田舎生活研究所の原田直紀さんにお話しいただきました。原田さんは綾部市で不動産・原田商店を経営しており、古民家を通じたコミュニティづくりも行なっています。今回のご講演では、原田商店、地元の方、行政が協力して住みやすいまちを模索している様子が伺えました。印象に残ったのは、不動産経営やコミュニティ形成のみならず、移住者が地域に溶け込めるようサポートしていることです。何も知らない土地に移住するのは不安でいっぱいだと思います。地域と移住者をうまく仲介する原田さんの存在はとても貴重です。

総会では、昨年度と今年度の活動や、次期役員などについて話し合いました。今年度はこれまでの方針に加え、綾部市や雲ヶ畑など縁の深い地域を元気づけることが提言されました。秋には2年ぶりに北山杉・里山コンサートを開催するので、忙しくなりそうです。

そして、今年度から2名の学生（青山、丸山）が理事に加わります。百年の会は若者の積極的参加を推進しており、代表の田村さんは、学生に百年の会のネットワークを活かしてほしいとおっしゃっていました。

寡聞小見な私ですが、若さだけには自信があります。理事として会の発展に貢献できればと思っています。

今年度もよろしく願いたします。(丸山)

☆京杉の家の住宅を見学しました☆

京都市左京区で改築された木造住宅の構造見学会と完成見学会が開かれ、それぞれ2017年12月と2018年4月に参加しました。

構造見学会の段階では、内部もようやく壁、床、天井がある程度できたところで、まだ床張りが終わっておらず、どんな構造になっているかがよくわかります。一部の合板を除くとほぼ無垢材のみ用いられていて、いろんな工夫をしながら耐久性を高めているとのことでした。例えば、屋根の重みで軒先が下がらないように梁を延ばして軒桁を支える手法が採用されるなどです。天井裏には断熱材が入っていて、空気も通り抜けるので夏の暑さはきちんとしのげるようになっています。フローリングや畳も暖かみがあり、備え付けの本棚を設置するなど居心地のいい空間づくりを心掛けています。

1階のフローリングには製材所から入手したツガの板（高知県にある国内唯一専門工場）が用いられていたり、床暖房が導入されていたりなど、施主が快適に過ごせるようによく考えられています。将来的に自分で家を建てることがあったら、随所に思い入れのある部分を設けて楽しみたいと思います。(野瀬)



2階に備え付けられた木製の本棚

## ★第7回ライフ・アンド・フォレスト★

2018年1月7日に第7回シンポジウムライフ・アンド・フォレストをNPO 法人才の木と共催で開きました。今回のテーマは、「先生たちの本音～林業人材育成の現場から～」ということで、ややプロ向きでしたが、なるべく現場で教育に従事している先生方から「本当は何を思っているのか」を聞き出そうとしました。なお、登壇予定だった九州大学の佐藤宣子さんは欠席なさいました。

1人目の杉本和也さん（岐阜県立森林文化アカデミー）は、所属する大学校での教育内容を具体的に紹介してくれました。実務主体のエンジニア科では、植林から伐倒・搬出に至る林業作業だけではなく、炭焼き、獣害ネット張り、キャンプといったことも経験すると聞き、多角的な働き方のできる「即戦力」を育てようという姿勢が明確でした。林業教育機関設立ブームより前からあるので、理念などがしっかりしています。

2人目の小山敦さん（鳥取県農林水産部）は、オーストリアの安全教育を取り入れた「とっとり林業技術訓練センター」を2017年に開設しました。伐倒や枝払いの基本動作を反復練習できるように工夫し、緑の雇用の研修生など延べ約150人が参加したそうです。実際に、2017年には新人の林業労働災害発生数がゼロになったらしく、目に見えて効果が現れていることがわかりました。象徴的に示す「Gut Holz」（良い木の意味）という言葉はとても印象的です。

3人目の田村典江さん（総合地球環境学研究所）は、欠席なさった佐藤先生のプレゼンテーション資料を代読するとともに林業の人材育成に関する概略的な説明をして下さいました。川上から川下までをつなぐ林業関連の人材としてエネルギー（温浴施設の熱源）、特用林産（ジビエも含む）、空間利用（森のようちえんなど）がもっとあってもいいとの指摘は大いに首肯できます。

コーディネーターの高部圭司さん（京都大学大学院農学研究科）は、京都大学農学部森林科学のポリシーやディプロマ（学習目標）についての紹介があり、続いてカリキュラムの内容（日本の林業・林産業を教えていない）、学生は使命感だけでは動かない（儲かる林業や林産業の重要性）、潔癖すぎる生活環境（ゴキブリや蚊の忌避）、インターネットやスマホへの依存、集団行動を好まないといった課題の指摘がありました。

講演を受けて行われたパネルディスカッションでは、司会の田村さんがフロアからの意見を積極的に求めるユニークなスタイルを採用して下さいのおかげで、話の広がりが出てとても勉強になりました。（野瀬）



講演中の杉本和也さん



講演中の小山敦さん



講演中の田村典江さん



講演中の高部圭司さん

## 酢屋を見学してきました

1月13日に酢屋に見学に行きました。「酢屋」と言ってもお酢を作っているところではなく木材商さんで、酢屋では一階では木工工芸品の製作・販売を、二階では坂本龍馬に関する展示を行っています。

河原町三条から少し入ったところ、高瀬川の近くにひっそりとそのお店はありました。お店に入ると木のお皿や椀、おもちゃなどがありました。そのどれも美しく、触れていたいと思わせる商品ばかりでした。私はその中でもマグカップが気に入り、これでコーヒーを飲みながら火を見たくくなりました。

現在木屋町は飲食などの店がその多くを占めていますが、かつてはその名の通り材木屋がたくさんある町でした。酢屋さんは創業(享保6年)から現在まで同じ地で商いを続けている唯一の店です。しかも、ただ材木屋を営んでいるだけではなく、約300年前からあるその町家も守り続けています。何か特別な手段があるに違いないと思って、こんな街中でどうやってこの伝統的な町家を残しているのか尋ねてみました。その答えは「思い」でした。どうやったってこの繁華街の真ん中で町家を残すことは採算の合わないこと。手放すことも考えたが、一度この建物を手放すと法律上、二度とこの地にこの建物を建てることができないことがわかり、どれだけきつともこの家を守り続けることにしたそうです。それをやってこられているのは「この地にこの建物を残さなくてはならない」という思いだけだとのことでした。

実感のこもったお話で何かを続けることの大変さが感じられました。一方でそうしてでも守りたいものがあることにうらやましく思います。

今回もお話をしていただいた酢屋の社長さんをはじめ多くの方にお世話になりました。貴重な体験をありがとうございました。(瀬戸山)



見学した酢屋の外観

## 彩工房主催のイベントに参加しました



枝打ちのために木に登っているところ

4月22日に京都市北区大森で開かれた枝打ちイベントに参加しました。このイベントは、色々な人に林業を体験してもらおうと、彩工房さんが毎年開催されている催しで、今年も家族連れや友達どうし誘い合うなど、たくさんの方が来てくれました。

枝打ちを行った場所は、10年生のスギ林で、大部分は一度目の枝打ちであるヒモ枝打ちはすでに行っていました。参加者の皆さんには、奥の方まで行ってもらってヒモ枝打ちを体験してもらい、その間私たちは木登り器を用いて高いところの枝打ちを行いました。

枝打ちはノコギリで行うのが一番安全なのですが、ノコギリだと切った断面がどうしてもギザギザになってしまい、あまり材木としての生育によくないとされています。しかし、山主さん方が使うようなナタや鎌だと、うまく枝を落とすのがなかなか難しい上に、手元が狂えば肝心の幹を傷つけてしまう可能性もあります。この日は場面に応じてナタとノコギリを使い分けていましたが、上手に枝打ちを行うのはやはり難しいとつくづく実感しました。

昼食は、彩工房さんお手製のダッチオーブン料理や山菜の天ぷらなどをいただきました。近くに自生していたタラノキからタラの芽を採ったりもして、参加者の方に山の楽しさを味わってもらえたと思います。

終わり頃に、山のことや森林について自分が学んでいることについてお話する機会をいただきました。話したことが、来ていただいた方にとって、山のことを身近なものとして考えるきっかけになればうれしい限りです。ありがとうございました。(青山)

## 今年度も事務局員が新たに加わりました！

はじめまして。新事務局員の持留匠といいます。山梨県の八ヶ岳出身で、京大の森林科学科一回生です。かつて、この柱は裏山のスギだ、この梁は庭に生えてたマツだ、というように、林業と建築は連続的なものでした。いま林業の未来を考えるにあたって、山も家もお互いを学び、お互いに価値観と問題意識を共有できるようなれたらいいな、と思っています。人と、家と、山と。よりよい関係を築くために頑張ります。よろしくをお願いします。(持留)

はじめまして。新しく事務局員となった林浩平といいます。京都大学工学部建築学科一回生です。

人は自然の一部だという当然のことを、どこにいても感じられるような暮らしを取り戻したいと考えています。建築は人の暮らしを直接に扱うことができるうえに、様々な分野を統合する場として機能します。広く学び、とらわれずに発想することで、現状を少しでも変えたいです。建築や林業に関する知識がまだまだ足りませんが、よろしくをお願いします。(林)

### ❖連載❖ (森林・林業小話 28)

#### 意外に古い木質ペレットの歴史

2017年2月発行の第38号でバイオマスブームが2000年頃から始まったと書きましたが、実際には2回目といえます。1回目は1979年の第二次オイルショック直後から始まり、原油価格が下落してきた1985年頃までです。木質ペレットは、1960年代後半にはすでに技術の存在が報告書で紹介されており、原理的には生産可能な状況にあったのだろうと推測しています。ネットの情報によると、国内では岩手の葛巻林業(自己破産後に2017年時点で株式会社エジソンパワーが事業引き継ぎ)が

1982年に広葉樹バークを原料に生産したのが最初だそうです。1984年には生産量が2万8,000トンになったという記録があるくらいで、一気に増えたことが伺えます。その後、1991年から2001年は3工場だけだったらしく、ブームが去ってからの落ち込みは大きかったことが伺えます。当時静岡で木質燃料工場を見学した記憶があり、寂れ具合が今も印象的です。こういった歴史的な経緯や教訓を踏まえて、今後の方向性を探ってほしいところです。〈野瀬〉

### 京都・森と住まい百年の会 会員募集

当会は、分断された京都の森林とまちの暮らしを結んで、互いの関係がよりよいものになることを活動目的としています。お近くの方にもぜひ、NPO法人京都・森と住まい百年の会をご紹介します。

ご賛同いただける方には入会のお誘いをお願いいたします。当会の詳細、入会については事務局までお問合せください。

ブログ<<http://kyotos100.blog102.fc2.com/>>

〒604-0931 京都市中京区寺町二条下ル榎木町 98-7

E-mail: [kyoto100nen@gmail.com](mailto:kyoto100nen@gmail.com)

ツイッターとフェイスブックもしています。



京都・森と住まい百年の会

#### 編集後記

久々に森林・林業小話を掲載しました。だいぶマニアックな話題になっています。

